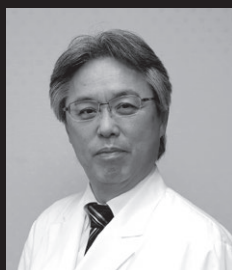
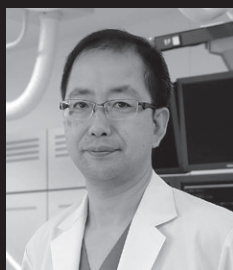


J-CMD研究会 (冠動脈疾患診療におけるCMDの活用)

日本人における冠微小循環障害のエビデンスを創出することを目的に発足された日本冠微小循環障害研究 (J-CMD) をはじめ、冠微小血管障害 (CMD) の評価が大変注目されてきている。冠動脈疾患診療を次のステージへと進めるために今回先生方にお集まり頂き、CMD評価の測定意義や評価における最新の知見についてディスカッションして頂いた。



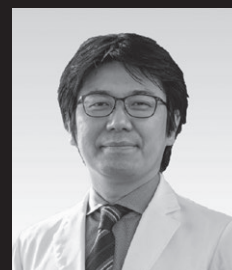
(司会)
福岡山王病院
横井宏佳



岐阜ハートセンター
松尾仁司



土浦協同病院
角田恒和



熊本大学
辻田賢一

実臨床におけるCMD評価

横井 先日、下川宏明先生のJ-CMD研究会の立ち上げがありましたが、これは非常にホットな話題だと思いました。ESC2022でもCMDのセッションが多く組まれております。このCMDの評価というものを実臨床にどう取り込んでいくべきなのか、どう取り組んでいこうとお考えになっておられるのか等、現時点における先生方のお考えをお話し頂ければと思っております。

松尾 虚血性心疾患治療に関して、カテーテル治療を行う私たちは、心外膜血管の狭窄を解除することが重要だと考えがちです。しかし臨床に

深く関われば関わるほど、実際には心外膜血管の狭窄だけでは解決できない問題がたくさんあると感じます。狭窄をステントできれいに治療しても、なぜか症状が改善しない症例に

少なからず遭遇します。これまでは、狭窄がきれいに解消すれば症状が残るわけがない、と思いながら診療していたと思いますが、微小循環の問題がクローズアップされるようにな

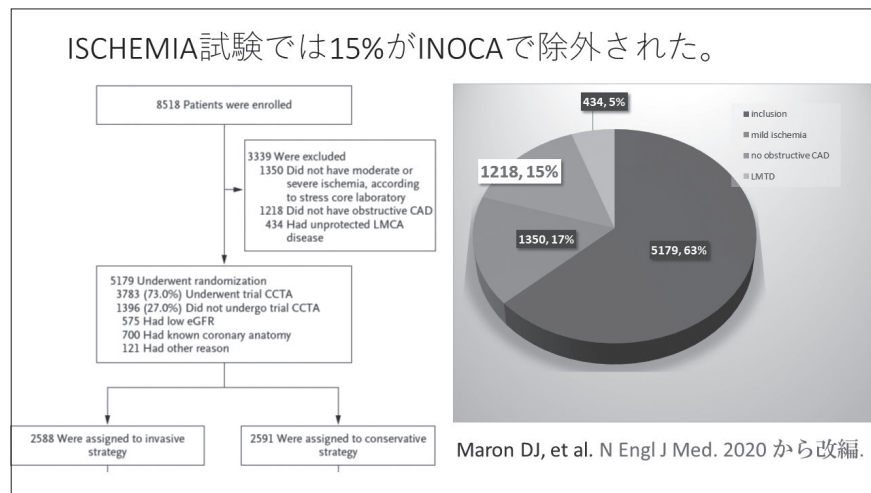


図1

ったことで少し考え方が変わってきたのかなと思います。

ORBITA試験において、PCI治療後に病変圧較差が消失しても、約50%のケースで症状が残ることが示されました。またISCHEMIA試験では非侵襲的機能的負荷試験において中等度から高度心筋虚血を認める患者群の15%に心外膜血管に狭窄を認めないことも示されています(図1)。こういった事実から、INOCA (Ischemia with Non-Obstructive Coronary Artery Disease) の頻度は我々の想像以上に多いと考えられます。こういった事象より、我々は心筋虚血をFFR・iFRなどにより評価できる心外膜血管に起因するコンポーネントとIMRで計測できる微小循環に起因するコンポーネントに分類して理解する必要があります(図2)。虚血性心疾患の患者さんの病態評価に包括的にアプローチする重要性がますます高まってきていると感じます。

CMD評価の現状： 岐阜ハートセンター

横井 先生は以前よりインターベンション治療をしながらFFRの評価や虚血評価について積極的に取り組まれ、プレッシャーワイヤーを使ったFFR、iFRの臨床応用においても、この10年間、非常に大きな役割を果たして来られたと思っています。

松尾先生の岐阜ハートセンターは、たくさんのデータを日本から世界に発信されていますが、そのほとんどはエピカルドのデータでした。松尾先生が仰ったように、CMDの評価が

松尾仁司

Hitoshi Matsuo

岐阜ハートセンター院長 循環器内科
岐阜大学医学部客員臨床系医学教授
愛知医科大学客員教授

- 1986年 4月 岐阜県立岐阜病院 ローテート研修
- 1987年 7月 Johns Hopkins Medical Institutions 核医学科リサーチフェロー
- 1988年 7月 岐阜県立岐阜病院 循環器科 固定研修
- 1989年 4月 国保高鷲村診療所 所長
- 1993年 4月 岐阜県立岐阜病院 循環器科 医長
- 2001年 4月 岐阜県立岐阜病院 循環器科 主任医長
- 2006年 11月 岐阜県総合医療センター 循環器科 主任医長
- 2007年 8月 岐阜県総合医療センター 救命救急部長/循環器科主任医長
- 2007年 9月 豊橋ハートセンター 循環器科部長
- 2009年 1月 岐阜ハートセンター 循環器科部長
- 2013年 4月 岐阜ハートセンター 副院長
- 2014年 4月 岐阜ハートセンター 院長
- 2017年 4月 岐阜ハートセンター 院長/岐阜大学医学部臨床医学系客員教授
- 2018年 4月 岐阜ハートセンター 院長
- 2019年 4月 岐阜ハートセンター 院長/愛知医科大学客員教授
- 2022年 1月 岐阜ハートセンター 院長/愛知医科大学客員教授/岐阜大学医学部臨床医学系客員教授

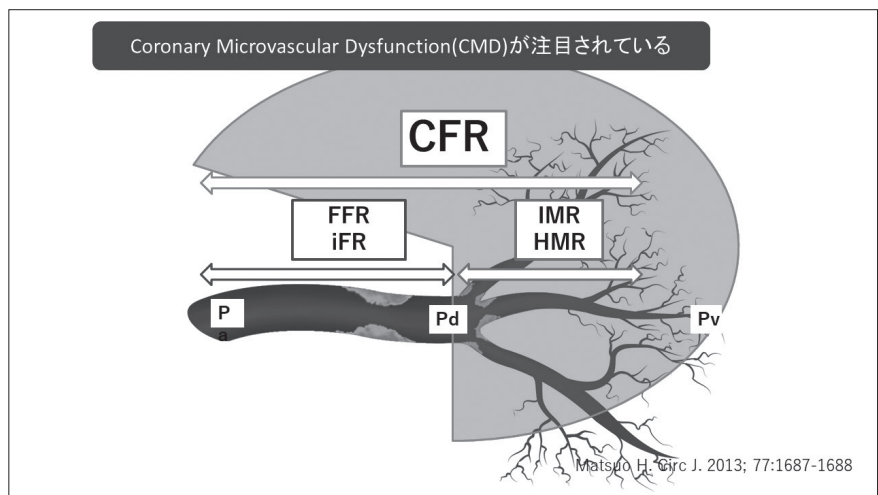
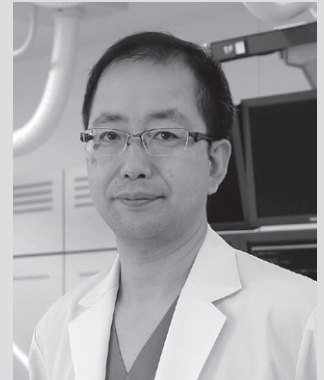


図2

臨床の現場でより身近にできる環境になってきた中で、既に先生の病院ではもう2年ほど前からその評価が始まっているかと思うのですが、INOCAの患者さんだけでなく、PCIの患者さんを始め色々な狭窄のある方でもCMDは存在するというものでした。岐阜ハートセンターのデイリー・

プラクティスでは、CMDの評価はどういった方向に向かって行っているのでしょうか。

松尾 理想的にはプレッシャーワイヤーを用いるすべての患者に微小循環の評価も行うべきだと思います。

しかし現実的にはカテーテル検査